

労働組合とは何ぞや

萬國の労働者よ團結せよ

「長いものに巻かれろ」「泣く子ど地頭には勝たれぬ」と言つて弱い者は強い者の足下に組織された儘眼を賤つてその屈從に甘んじてゐたものです。併し之は封建時代の話で自由平等の今日には全く通用しない話であります。彼れも人なり、我も人なり、資本家だとして、労働者だとして人間には何等變りはないのです。勞資の間柄は從來の如き主従關係ではなく、賣手と買手の權利義務關係に過ぎないのです。それで労働者と資本家の關係は對等で兩者に依つて結ばれる雇傭契約も全く自由契約、對等契約である筈であります。然るに事實はどうぞや。労働者は常にその日暮しの貧民でありますから、資本家と契約するにしても一般商品の賣買のやうに「安ければ買りませぬ」といつて掛引する事が出来ません。若し労働を賣らねば、彼はその日一日喰はずにゐなければならぬからでありませぬ。彼が生命を繋いで行く爲めには、資本家の言値の安い賃銀で甘んじて働かねばならぬのです。然らば労働者は永久に資本家の前に、安い賃銀で彼の労働を賣らねばならぬかと思はれます。然らば労働者一人と資本家一人なら勝負は決まつてゐますが、弱い労働者でも多数が一束になつて資本家に當るならば決して敗は取らぬのです。一人々々の労働者が別々に契約をするから悪い條件で働かねばならぬのですが、多数の労働者が團結して團體的に取引するならば、必ず善い條件で契約を結ぶ事が出来るのです。若し資本家が労働組合との間に定めた標準賃銀よりも低い賃銀で労働者を雇はうとしたら、又は組合の要求する賃銀の値上に應ぜざる時、その他資本家を牽制する必要がある場合に、組合は團結の力に依つて資本家に當らねばならぬのであります。或論者は「同盟罷業は一國の産業を毒するものだ」と申しますが、罷業が我等の目的ではありませぬ。只手段に過ぎぬのです。だから若し罷業せずに済むならば組合としては敢て之をやらうと思はないのです。職はずして勝つ事は、組合の最も望む處ですその爲めにも組合は常に大きな力を持つてゐなければなりません。若し労働者にして資本家の雇從に甘んづるを快しとせぬ者は先づ労働組合へ來らねばなりません。此頃二工場を單位とする總斷組合なるものがあります之は果して私共の望んでゐる労働組合でしやうか。總斷組合の目的は多くは親睦又は相互救濟の外に出ませぬ。前に述べた團體的取引に依つて労働條件の改善を圖るといふが如き職能は、此種組合にはないのです。之では私共の眞の保護機關とはならぬので又最近工場委員會なるものが各工場で組織されてゐます。之は労働者の福利の増進を圖ると申しますが、委員の主張が其儘實行される譯ではなく只工場主の参考に資せられるといふだけで之の亦頼みならぬ事は申すまでもありません。故に眞の労働組合は御用組合のやうに會社の重役などを交へる事なく賃銀労働者のみに依つて組織したもので少くとも雇傭條件の維持改善を目的とし又は之は問題の起つた都度、一時的に起つて又忽ち消ゆるといふやうな泡沫的團體ではなく常設團體である事を必要とするのです。そして此労働組合は一面に於て此の誤れる社會組織を改造する大使命を荷負ふてゐるのです。言はゞ労働組合は大小の二目的を持つのです。然うです。社會改造の大理想も、眼前の我等の福利の増進も此の労働組合に依つてのみ達成せられるのです。労働組合は實に労働者の唯一無二の守本尊であります。自らを愛し自らをより善くせんとする労働者は先づ労働組合に來らねばなりません。來れ労働者!!そして結束せよ、萬國の労働者!!!

